



学校だより

浮舟

u k i f u n e

令和6年1月18日(木)
第37号

〒979-2157
南相馬市小高区吉名字中坪1
Tel 0244-44-2023

情報編集力～AIに負けない学力とは

昨今のAI（人工知能）の技術革新は目を見張るものがあり、とりわけ ChatGPT:Chat Generative Pre-trained Transformer（文章生成モデル）の出現により、まるで人と会話をしているかのように、違和感なく受け答えする機能まで簡単に利用できるようになるなど、これまで人間が行ってきたことをどんどんAIが担う時代を迎えています。さらにそれだけに留まらず、亡くなった有名な漫画家の作風を学習し、その漫画家が描きそうな新しいストーリーを生み出し、人間の力を借りながら新作を発表するなど、AIが各分野の一般化された専門家としてのみならず、一人の特定された人物の代わりとして表現する恐るべき第一歩まで踏み出し始めています。

このような背景を受け、AIに負けない、つまりAIに取って変わることができない力が、今、子どもたちに身につけさせたい学力の基本的な考えとなっています。では、まずはじめに、AIの思考経路について考えてみましょう。右のイラストを見てください。→

私たち人間はこのイラストに描かれたものが「動物」であり「犬」であることを瞬時に理解します。さらに「コーギー（犬種）」といった詳しい情報や「かわいらしい」といった感情まで持つ人もいるかもしれません。一方、AIはこのイラスト1枚については何の判断もしません。蓄積された膨大な写真やイラストデータを探し、そして比較して「犬」という「動物」であることが妥当であると判断し、「コーギー」であることや、多数の人が「かわいらしい」と思うものであることを、SNS上のコメント等から予測し、瞬時に判断します。この情報を処理する能力（情報処理能力）こそ、



これまで学校教育において長年重要とされ、別な言い方をすれば、『**正解を探すジグソーパズル型学力**』として、教師主導型授業で進められてきました。しかし情報処理能力はもはや人間が逆立ちしてもAIにかなわない能力であり、AIこそ、それを担わせるべきものとの考え方に定まりつつあります。つまりこれからの学習では、新しく**情報編集力**、言い換えれば『**納得解を探すレゴ型学力**』への転換が求められていることとなります。レゴブロックで自由に製作するように、学習者一人一人が情報を収集し、適切に処理し、編集する（形づくる）力を学校教育の中で、答えが一つと限らない「生徒と教師が共に学ぶ授業」を通して身につけさせていきたいと思えます。

先日、令和6年度大学入学共通テストで以下のような地理の問題を見つけました。正に**情報編集力**が求められている片鱗が見て取れる、中学生でも解くことができる問題です。ご家庭で親子そろってチャレンジしてみてください。答えは次号でお知らせいたします。

次の表1は、日本のいくつかの市区における昼夜間人口比率*と、それぞれの市区への通勤・通学者**が利用する主要な交通手段***の割合を示したものである。表1中の①～④は、秋田市、東京都心の中央区、東京都郊外の調布市、福岡市のいずれかである。福岡市に該当するものを、①～④のうちから一つ選べ。

*昼間人口÷夜間人口×100。 **15歳以上の自宅外就業者・通学者。 ***複数回答を含む。

【表1】

	昼夜間人口比率	通勤・通学者が利用する主要な交通手段の割合(%)		
		鉄道	乗合バス	自家用車
①	456.1	91.6	10.5	3.9
②	109.8	33.2	17.3	30.0
③	103.7	5.2	4.9	70.8
④	83.9	49.7	12.8	10.9

(令和6年度大学入学共通テスト「地理B」)